



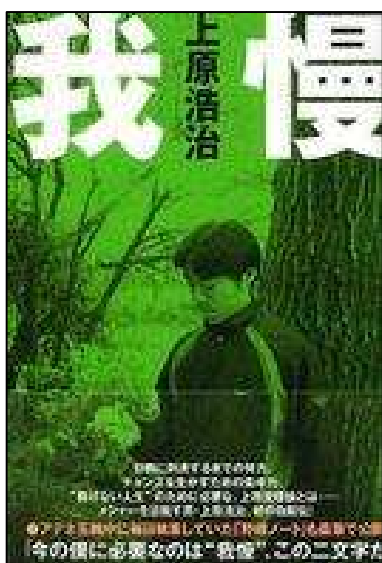
久しぶりの「HONTO」、第7号です。今回は保健体育科の宮下先生です。ひとつのことに一心に打ち込んで、何事かを成した人物は、語るべきことを持っています。それが何であれ、人に知られたことかどうかに関係なく、自分の中に確固とした信念となって存在します。そんな人は、そばにいても感じ取れる空気があり、人を惹きつけてやみません。そんな人物が書いた本を読むことで得られることは、ひとつだけではないはず。野球に興味がないと思っている人でも、思いがけない発見があります。食わず嫌いをしない、柔軟な心が大切です。

おすすめの本

保健体育 宮下隼一

わたしのおすすめしたい本と問われると瞬時に思い出せる本は正直言ってない。幼少期から外で遊ぶ事が好きな少年時代を過ごし、小学校時代には週刊マンガしか読んでいなかった。小学2年生に野球というスポーツに出会い夢中に中学・高校と打ちこんだ。もちろん高校時代には最高峰と言われる甲子園を目指したが夢は叶わなかった。クラブ活動に時間がさかれ読書をする時間がなかったと言えば嘘になるが、休みがあれば友人と遊ぶ時間で過ぎていった。おそらく、高校時代には学校にある図書室にすら入った記憶がない。

好きな野球を続ける中で大学時代に一人のビッグな男に出逢った。それは上原浩治（現レッド・ソックス）である。同級生だった彼が一昨年のMLB（メジャー）の世界一が決まる試合でクローザーとしてマウンドに立ち勝利を収めたのである。



1冊目は「我慢」

そのひたむきさが「雑草魂」と称されたプロ入りから6年。球界屈指のエースとなった上原浩治。目標に到達するまでの努力、チャンスを生かすための集中力、「負けない人生」のために必要な、上原流理論とは...?メジャーを目指す男の初の自叙伝です!!明かされなかった秘話や、球界やファンへのメッセージ、そしてメジャーへの

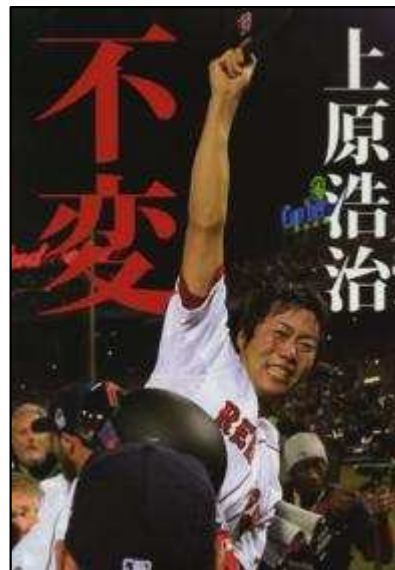
思いを語り尽くした本書には、同年代の若者たちが人生を行き抜くためのヒントも満載!「負けない男」上原浩治の自伝であるとともに、夢を夢とせず目標として達成しようとする一人の男による人生の指南書でもあります。

『雑草魂』 宮下隼一

アテネオリンピック中に毎日つけていた、「野球ノート」も直筆で公開!「僕の本当の気持ちを知ってもらいたいと思う。」「今の僕に必要なのは『我慢』、この二文字だ」という率直だからこそ、心に素直に染みしてくる彼の熱く溢れる想いはファンだけのものにするのではもったいない!同世代の人や、これから人生が始まる全ての人にオススメの一冊です!!

2冊目は「不変」

高校時代は甲子園に出場できず、大学進学する際に浪人を経験し、巨人軍に入団1年目に20勝し、何度もケガを経験し、決して若いとは言えない34歳のときに、メジャーリーグ挑戦を表明し、シーズンが始まりすぐに、選手生命を脅かす「右ひじ腱の断裂」が判明し、約1年かけてマイナーリーグでリハビリを行う。



その後レンジャーズにトレードされ、紆余曲折を経て、レッドソックスのクローザーに。さらに投手の花形の「先発」、あまり光が当たらない「中継ぎ」、そして1年間ローテーションを守ればいいと言われている「抑え」これらすべてを経験している。ところで、この本のタイトルが僕は気になった。なぜ「不変」なのか。彼の代名詞とも言える「雑草魂」それならば納得できる。その答えは、本書のおわりの方で分かった。2013年を振り返り、多く人は僕にこう質問をする。「これまでと比べて何が一番変わりましたか?」僕ははっきりとこう答える。「何も変えていない」そして「何も変わっていない」と。僕は「変えなかったこと」が、大きな成果を生んだと思っている。これまでと変わらず、やるべきことをコツコツと継続してやってきたことが実を結んだ。3~4日の継続ではなくて、何年もかけて積み重ねてきたものが2013年にやっと花開いたとおもっている。調整方法や生活のリズム、そして思考も含めたあらゆるものを、僕は変えていない。僕の野球人生は、まだまだ続く。2013年で終わりじゃないし、引退するわけでもない。だから、今やるべきことを、今できることを毎日コツコツやっている。僕はまだ燃え尽きていない。ワールドシリーズを制覇してもなお、「反骨心」は消えない。本当の頂点とは何か?それは、野球人としてすべてをやり終えた時だと思っている。引退する時が、僕にとっての「頂点」だ。

大学時代共に時間を共有した仲間として羨ましい人物であり、今は一ファンである。何年たっても変わらないこと、それは上原浩治は「野球が大好きだ」ということ。しかも「子供のように野球に夢中になってる」ということ。人生の中で好きなものに出会い、それを仕事にしつつも、常に子供の様な純粋な心で向き合い続けるというのは並大抵のことではないと思います。みなさんはどんな夢をつかもうとしていますか。

